

平成26年9月定例会会議録（第3号）

平成26年9月8日 月曜日 午前10時00分開議

小 関 勝 助 議 長 大 道 寺 信 副議長

出 席 議 員 （15名）

1番	赤 間 泰 広	議員	2番	梅 津 善 之	議員
3番	江 口 忠 博	議員	4番	今 泉 春 江	議員
5番	小 関 秀 一	議員	6番	竹 田 博 一	議員
7番	我 妻 昇	議員	8番	大 道 寺 信	議員
9番	蒲 生 光 男	議員	10番	町 田 義 昭	議員
11番	佐々木 謙 二	議員	12番	安 部 隆	議員
13番	渋 谷 佐 輔	議員	14番	高 橋 孝 夫	議員
16番	小 関 勝 助	議員			

欠 席 議 員 （1名）

15番 大 沼 久 議員

説 明 の た め 出 席 し た 者

内 谷 重 治	市 長	遠 藤 健 司	副 市 長
中 井 晃	総 務 課 長	齋 藤 環 樹	財 政 課 長
谷 澤 秀 一	企 画 調 整 課 長	高 石 潤 一	税 務 課 長
松 本 弘	市 民 課 長	梅 津 明 夫	健 康 課 長
松 木 幸 嗣	福 祉 生 活 あ ん し ん 課 長	種 村 正 一	子 育 て 支 援 課 長
青 木 邦 彦	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	渋 谷 憲 治	市 民 相 談 セ ン タ ー 所 長
堀 越 俊 一 郎	監 査 委 員	加 藤 弘 二	教 育 委 員 長
加 藤 芳 秀	教 育 長	遠 藤 誠 一	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長
鈴 木 榮 一	農 業 委 員 会 会 長	孫 田 邦 彦	農 林 課 長
梅 津 和 士	商 工 振 興 課 長	鈴 木 広 弥	観 光 振 興 課 長
松 木 満	建 設 課 長	鈴 木 一 則	ま ち ・ 住 ま い 整 備 課 長
横 山 賢 一	上 下 水 道 課 長	遠 藤 敏 男	管 理 課 長
齋 藤 理 喜 夫	文 化 生 涯 学 習 課 長	佐 野 安 広	生 涯 ス ポ ー ツ 課 長
寒 河 江 新 一	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長	佐 々 木 弘 充	選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長

高橋 洋一 監査委員事務局長
渋谷 正通 消防主幹

鈴木 隆政 農業委員会事務局長

事務局職員出席者

飯澤 常雄 議会事務局長
鈴木 和夫 議事調査係長
小林 克人 補佐
安達 洋司 主任技士

議事日程（第3号）

平成26年9月8日 月曜日 午前10時00分開議

- 日程第 1 市政一般に関する質問
- | | | |
|----|-------|----|
| 1番 | 赤間 泰広 | 議員 |
| 6番 | 竹田 博一 | 議員 |
| 8番 | 大道寺 信 | 議員 |
| 7番 | 我妻 昇 | 議員 |
| 2番 | 梅津 善之 | 議員 |

本日の会議に付した事件

議事日程（第3号）に同じ

開 議

○小関勝助議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、15番、大沼久議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は、定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○小関勝助議長 日程第1、市政一般に関する質問を5日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

赤間泰広議員の質問

○小関勝助議長 順位6番、議席番号1番、赤間泰広議員。

(1番赤間泰広議員登壇)

○1番 赤間泰広議員 おはようございます。公明党の赤間泰広でございます。

ことしの夏は全国各地で大変な豪雨災害が多発しました。まず初めに、被災された方々に対して心よりお見舞いと、お亡くなりになられた方に対して衷心よりお悔やみを申し上げます。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

昨年度とことし7月9日、10日に発生した長井市での豪雨災害は、改めて自然災害の恐ろし

さと人間の無力さを強く認識させられました。幸いなことに長井市では人的被害が少なく、少々安堵しているところであります。

昨年度に引き続き同じような質問をしなければならぬことに腹立たしさと悔しさを覚えるのは私だけではないと思います。

市民の生命と財産を守るのは私どもの使命であり、行政当局におかれましては、もう二度とこのような災害に市民の皆様を遭わせないという強い決意を持って対処していただきたいと思っております。と申しますのは、同じ場所が再び床上・床下浸水等の被害を受けてしまったことであります。教訓は生かされたのか。この際、市民の皆様に対して昨年度の復旧状況と今年度の災害発生時の対応と今後の復旧についてお示しいただきたくお願いいたします。2度あっても3度はないですと強く申し上げたい。

今回の豪雨災害でも、昨年度に引き続き消防団の皆様には大変なご苦勞をおかけいたしました。この場をかりて心より感謝の意を申し述べさせていただきたいと思っております。

言うまでもなく、少子高齢化社会を迎え、ますます消防団の役割が重要になってくるものと思われまます。今回のことで本当に大変だと強く感じました。ある団員は夜勤であったが呼び出されてきました、また終わり次第職場に戻ると言っておりました。まさに仕事、家庭を犠牲にして活動していることに頭が下がります。昨年度も同じことを提言いたしましたが、大変なご苦勞をおかけしているわけで、それに見合った報酬を支払うべきと考えます。

また、このように大変さだけが目につき、ますます消防団になる方が少なくなるものと推測されます。実際、全国的に言いますと、これは山形新聞の記事、ことしの2月16日付であります。1952年に200万人以上いた消防団員が2013年度には86万人まで減少している状態のことです。